

## 政務活動に係る活動報告書

|           |   |
|-----------|---|
| 会 派 名     | 市民クラブ   |
| 活 動 項 目   | 先進地視察・研修会開催・研修会参加・その他（ ）  |
| 実 施 年 月 日 | 令和元年11月13日（水）   |
| 参 加 者 名   | 枝松直樹、中川とみ子、川口 豊、神保光一  |
| 視 察（研 修）地 | 大分県竹田市  |
| 応 対 者     | 商工観光課 観光戦略担当副主幹 森田 康之 氏   |
| 目 的       | 温泉を活用した健康づくりの取組を学ぶこと  |
| 調査(研修)項目等 | 「クアパーク長湯」の実践  |
| 概 要       | <p>竹田市は人口 22,332人の山あいの町で、以前からドイツのクアパークを手本に温泉を使った健康づくりに取り組んできました。</p> <p>今回は、令和元年6月にオープンしたばかりの「クアパーク長湯」を視察いたしました。本市が計画をしている温泉健康施設の先例として、実際にどのように取り組まれているのか視察してまいりました。</p> <p>竹田市には、日本一の天然炭酸泉が湧き出ている長湯温泉があります。</p> <p>その炭酸泉を活かし、かつ、ヘルスツーリズム認定商品の開発をめざして、新たにクアパーク長湯を開設しました。</p> <p>クアパーク長湯は1階が水着で入るバーデゾーンで、温泉プールと長さ50mの歩行浴槽があり、2階は男女別浴室がある温泉棟となっており、このほかレストラン棟、コテージタイプの宿泊棟からなる複合施設です。</p> <p>建設費は約5億円で、地方創生拠点整備事業費から1億8千万円の交付金を受け、コテージとレストランは、株式会社長湯ホットタブが建設。市では1億円の補助金を交付したのみ。</p> <p>運営は、竹田市から指定管理を受けている、株式会社長湯ホットタブが行っていますが、指定管理料は0円です。コテージとレストラン収入で相殺する仕組みにしているため、竹田市の負担は全くない状態で運営を行っています。</p> <p>竹田市では、以前から炭酸泉を予防医療と健康づくりに活かす</p> |

取組を続けており、平成29年には温泉利用型健康増進施設の連携型の認可を受けました。令和元年9月時点で、竹田市には、温泉入浴指導員が96人、温泉利用指導者が5人、竹田市総合インストラクターが52人います。竹田市総合インストラクターは、温泉・自然・食・環境等の地域資源を活かした健康づくりを支援し、温泉入浴や湯中運動も支援する竹田市独自の資格です。

クアパーク長湯の入館料は大人500円、子ども200円、水着のレンタル料500円です。

私たちも、水着を借りて、湯中運動や長さ50メートルの歩行湯を2往復歩いてみました。お湯の中での歩行は、想像を絶するほどの疲労感で、この後にジムで運動することなどとてもできないほどでした。湯中運動は体幹を保つ機能が増すとのことでしたが、確かに効果はあると実感しました。

今後、エビデンスを蓄積し、炭酸泉を活用した健康増進プログラムを作り、ヘルスツーリズム認証商品の開発を行うとのことです。

クアパーク長湯は、山あいであり、公共交通が未整備のため、輸送方法をどうするのが課題として挙げられていました。

竹田市では、「歩いて、温泉入浴して、食べて、笑う」ことを元気になる黄金の法則と定義し、竹田式湯治と称していました。

所 感

本市でも温泉健康施設の建設が進められていますが、当該施設が市民の健康増進に果たす役割を市民に丁寧に周知し理解してもらう必要があります。

今後、市民のための施設とするためには、健康づくりプログラムにどのように温泉を活用するのか、市民をはじめ医療関係者及び観光関係者と議論を続けていかなければならないと感じました。